

相馬政德纂輯

議院法 眾議院議員撰舉法

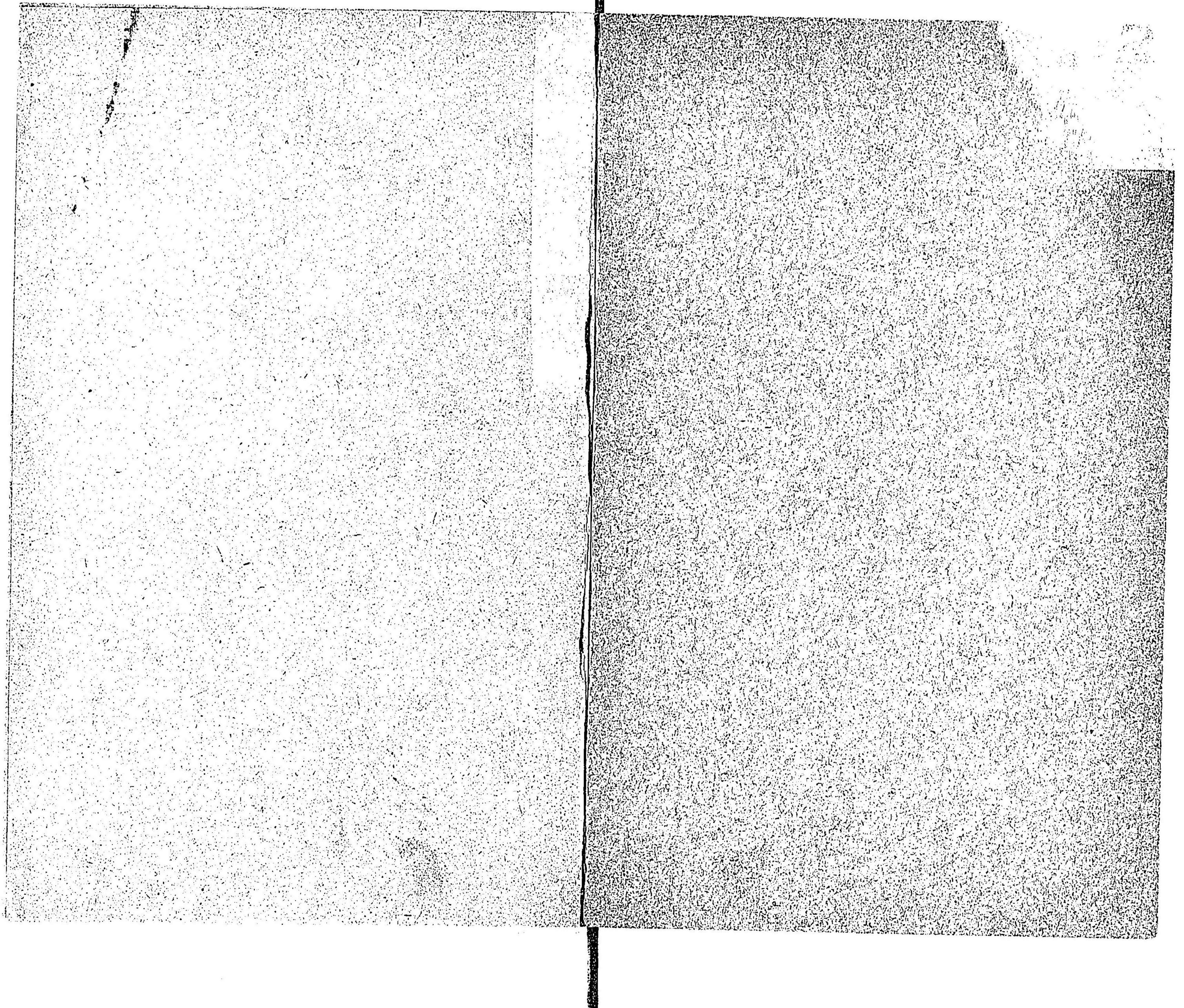
傍訓

大日本帝國憲法

撰舉法附錄(撰舉區各員) 貴族院令

發兌書肆

博文閣



第15  
234

No 15438

相馬政德纂輯



勸懲

大日本帝國憲法

議院法 衆議院議員撰舉法

撰舉法附錄〔撰舉區區員〕 貴族院令

發兌書肆

博文閣

C2  
212  
035

# 告 文

皇朕ノ謹ミ畏ミ

皇祖

皇宗ノ神靈ニ詰ケ白サク皇朕レ天懷無窮ノ宏謨ニ循ヒ惟神ノ  
寶祚ヲ承繼シ舊圖ヲ保持シテ敢テ失墜スルコトナシ顧ミルニ  
世局ノ進運ニ膺リ人文ノ發達ニ隨ヒ宜ク

皇祖

皇宗ノ遺訓ヲ明徴ニシ典憲ヲ成立シ條章ヲ照示シ内ハ以テ子  
孫ノ率由スル所ト爲シ外ハ以テ臣民翼賛ノ道ヲ廣メ永遠ニ遵  
行セシメ益々國家ノ丕基ヲ鞏固ニシ八州民生ノ慶福ヲ増進ス  
ヘシ茲ニ皇室典範及憲法ヲ制定ス惟フニ此レ皆

皇祖

皇宗ノ後裔ニ胎シタマヘル統治ノ洪範ヲ紹述スルニ外ナラズ  
而シテ朕カ躬ニ逮テ時ト俱ニ舉行スルコトヲ得ルハ洵ニ

皇祖

皇宗及我カ

皇考ノ威靈ニ倚籍スルニ由ラサルハ無シ皇朕レ仰テ

皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ  
憲章ヲ履行シテ愆ヲサラムコトヲ誓フ鹿幾クハ  
神靈此レヲ鑒シタマヘ

### 憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕ガ祖宗  
ニ承クルノ大權ニ依リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大  
典ヲ宣布ス惟フニ我ガ祖我ガ宗ハ我ガ臣民祖先ノ協力輔翼ニ  
倚リ我ガ帝國ニ肇造シ以テ無窮ニ垂レタリ此レ我ガ神聖ナル  
祖宗ノ威德ト茲ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉ヒ以  
テ此ノ光輝アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我ガ臣民ハ即チ  
祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕ガ意ヲ奉體シ  
朕ガ專チ獎勵シ相與ニ和衷協同シ益々我ガ帝國ノ光榮ヲ中外  
ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同クシ  
此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハザルナリ

目次

○大日本帝國憲法

第一章 天皇

第二章 臣民ノ權利義務

第三章 帝國議會

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五章 司法

第六章 會計

第七章 補則

○議院法

目次

四丁  
七丁  
九丁  
十四丁  
全丁  
十六丁  
十九丁  
二十一丁

目次

第一章	帝國議會ノ召集成立及閉會	二十二丁
第二章	議長書記官及經費	二十三丁
第三章	議長副議長及議員歳費	二十六丁
第四章	委員	全丁
第五章	會議	二十八丁
第六章	停會閉會	三十丁
第七章	秘密會議	三十一丁
第八章	豫算案ノ議定	三十二丁
第九章	國務大臣及政府委員	全丁
第十章	質問	三十四丁

○衆議院議員選舉法

第十一章	上奏及建議	三十五丁
第十二章	兩議院關係	全丁
第十三章	請願	三十八丁
第十四章	議院ト人民及官廳地方議會トノ關係	四十丁
第十五章	退職及議員資格ノ異議	四十一丁
第十六章	請暇辭職及補闕	四十二丁
第十七章	紀律及警察	四十三丁
第十八章	懲罰	四十六丁
第一章	選舉區畫	五十丁

目次

目次

四

第二章	選舉人ノ資格	五十一丁
第三章	被選人ノ資格	五十二丁
第四章	選舉人及被選人ニ通ズル規定	五十四丁
第五章	選舉人名簿	五十五丁
第六章	選舉ノ期日及投票所	六十一丁
第七章	投票	六十二丁
第八章	選舉會	六十五丁
第九章	當選人	六十九丁
第十章	議員ノ任期及補闕選舉	七十一丁
第十一章	投票所取締	七十二丁

第十二章

當選訴訟

七十四丁

第十三章

罰則

七十七丁

第十四章

補則

八十二丁

○衆議院議員選舉法附録沿革

八十五丁

愛知縣區郡區別議員人員

全丁

静岡縣各郡同

八十六丁

岐阜縣同

八十七丁

三重縣同

八十八丁

東京府初メ各府縣議員總數

八十九丁

○貴族院令

九十二丁

目次

五



訓 傍  
大日本帝國憲法

愛知 相馬 政徳 纂輯

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シマタヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其ノ懿徳良能ヲ發達セシメンコトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ即チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ太憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

憲法

國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕ノ子孫ハ將來此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ

朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於テ其ノ享有ヲ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼承ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ムルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- |        |        |
|--------|--------|
| 内閣總理大臣 | 伯爵黑田清隆 |
| 樞密院議長  | 伯爵伊藤博文 |
| 外務大臣   | 伯爵大隈重信 |
| 海軍大臣   | 伯爵西鄉從道 |
| 農商務大臣  | 伯爵井上馨  |
| 司法大臣   | 伯爵山田顯義 |
| 大藏大臣   | 伯爵松方正義 |
| 陸軍大臣   | 伯爵大山巖  |
| 文部大臣   | 伯爵森有禮  |
| 逓信大臣   | 子爵榎本武揚 |

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此憲法ノ條規ニ依リ之ヲ

行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其公布及執行ヲ命ズ

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其開會閉會停會及眾議院ノ解散ヲ

命ズ

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ

由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス此ノ勅令ハ

次ノ會議ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若シ議會ニ於テ承諾セサル時ハ

政府ハ將來ニ向テ其効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣

民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム

但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及ヒ文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免

ス

但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタル者ハ各々其條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統治ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及ヒ常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約シ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及ヒ効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勲章及ヒ其他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及ヒ復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民ノ權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均ク文武官ニ任

セラレ及ヒ其他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非メシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受ル

コトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受ルノ權ヲ奪ハ

ル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外其許諾ナクシテ  
住所ニ侵入セラレ及ビ搜索セラル、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外信書ノ秘密を侵  
サル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシ  
公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ゲズ及ビ臣民タルノ義務ニ背カザ  
ル限リニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社

ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願  
ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ゲタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天  
皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ゲタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ規律ニ抵触セザル  
モノニ限り軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス  
第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及敎任セラ

レタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ズ

第三十七條 總テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各自々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再び提出スルコトヲ得ズ

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各其意見ヲ政府ニ建議ス

ルコトヲ得

但其採納ヲ得ザルモノハ同會期中ニ於テ再び建議スルコトヲ得ズ

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ

臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及ヒ停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ

衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタル時ハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉

セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之レヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其總議員三分ノ一以上出席スルニアラサレハ

議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ議長ノ

決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス

但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此憲法及議院法ニ掲ルモノ、外内部ノ整理ニ必要

ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及ヒ表決ニ付院

外ニ於テ責ヲ負フコトナシ

但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シ

タルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關ル罪ヲ除ク外

會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及ヒ政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發

言スルコトヲ得

第四章

國務大臣及樞密顧問

第五十五條

國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關ル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條

樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ

重要ノ國務ヲ審議ス

第五章

司法

第五十七條

司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條

裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ズ

ナシ  
裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免ゼラル、コト

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條

裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス

但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アル時ハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條

特別裁判所ノ管轄ニ屬スベキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條

行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスル

ノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限リニ在ラス



第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及ビ稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之レヲ定ムベシ

但報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其他ノ收納金ハ前項ノ限りニ在ラズ

國債ヲ起シ及ビ豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之レヲ改メザル限りハ舊ニ依リ之レヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協贊ヲ經ベシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生ジタル支出アル時ハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スベシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除クノ外帝國議會ノ協贊ヲ要セズ

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ケル規程ノ歲出及ビ法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之レヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ズ

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クベカラザル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ル爲ニ豫備費ヲ設クベシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハザル時ハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セズ又ハ豫算成立ニ至ラザル時ハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出歳入ノ決算ハ會計検査院之レヲ検査確定シ政府

ハ其検査報告ト共ニ之レヲ帝國議會ニ提出スベシ

會計検査院ノ組織及ビ職權ハ法律ヲ以テ之レヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將采此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アル時ハ勅命ヲ以テ議

案ヲ帝國議會ノ議ニ付スベシ

此場合ニ於テ兩議院ハ各々其總員三分ノ二以上出席スルニ非ザレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非ザレバ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

第七十四條 皇室範典ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セズ

皇室範典ヲ以テ此憲法ノ條規ヲ變更スル事ヲ得ズ

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之レヲ變更スルコトヲ得  
ズ

第七十六條

法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヒタルニ拘ラズ此憲法ニ

矛盾セザル現行ノ法令ハ總テ遵守ノ効力ヲ有ス

歳出 上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例  
ニ據ル

# ○議院法

朕ちん樞密顧問しゆみつこんもんノ諮詢しじゆんヲ經テ議院法ヲ裁可さいかシ之ヲ公布セシメ併あはセテ貴族院及  
衆議院成立ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命めいス

## 御名御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨

法律第二號

議院法

司 法 大 臣	伯 爵 山 田 顯 義
大 藏 大 臣	伯 爵 松 方 正 義
無 內 務 大 臣	伯 爵 大 山 巖
陸 軍 大 臣	子 爵 森 有 禮
文 部 大 臣	子 爵 榎 本 武 揚
遞 信 大 臣	

第一章

帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラル、マテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互選スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章

議長書記官及經費

議院法

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 議各院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得

但シ表決ノ數ニ預カラズ

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ選舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラ

ル、マテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

第十七條 書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十八條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

第十九條 書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

第二十條 書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ズ

議院法

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章

議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被

選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ列ニ定ムル所ノ規則ニ從

ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應ゼザル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ズ

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ズ

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ズ

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議員ノ定ムル所ニ依リ一日

五圓ヨリ多カラサル手當ヲ受ク

第四章

委員

第二十條

各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル

爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニア

ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議員ノ撰舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クル

モノトス

第二十一條

全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條

全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會

ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非ザレバ議事ヲ閉キ議決ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聴ヲ禁ズ但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁ズルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議員ニ報告スベシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議員ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスベシ但シ他ノ議事緊急ノ

場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求

若クハ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經ズシテ之ヲ議決スルコトヲ得ズ但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スル者ハ二十人以上ノ賛成アルニ非ザレバ議題ト爲スコトヲ得ズ

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スベシ

但シ兩議院ノ一二於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マデニ公布セラルベシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命ズル

コトヲ得

議院停會ノ後再び開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スベシ

第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命ジタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラザルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スベシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得  
一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ



二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聴人ヲ退去セシメ討論ヲ用井スシテ可否ノ決ヲ取ルベシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サズ

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルニ非ザレハ議題ト爲スコトヲ得ズ

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラズ

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務大臣及政府委員ニ報知スベシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ

國務大臣及政府委員ニ送付スベシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サントスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スベシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得ザルトキハ質問ノ事件ニ付

議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セントスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非ザレハ議題ト爲スコトヲ得ズ

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スベシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スベシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スベシ若之ニ同意セザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムベシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ

得ズ

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スベシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サズ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サズ

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可不同

數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ  
每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ  
之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依  
リ之ヲ定ムベシ

第十三章

請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之  
ヲ受取ルベシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハズト認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員  
ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ録シ每週一回議院  
ニ報告スベシ

請願委員特別ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキ  
ハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付スベシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スベキコトヲ議決シタルトキハ意  
見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ  
得

第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以

テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ズ

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ズ

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス

若ハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ズ

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用非政府又ハ議院ニ對

シ侮辱ノ語ヲ用非ルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ズ

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得

ズ

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セズ

第十四章

議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ

得ズ

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ

求ムルトキハ政府ハ秘密ニ渉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應ズベシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向

テ照會往復スルコトヲ得ズ

第十五章

退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任ゼラレ又ハ法律ニ依リ

議員タルコトヲ得ザル職務ニ任ゼラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生ジタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ズ

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラル、ニ至ルマデハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハズ但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨明スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ズ

第十六章

請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間に超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其ノ一週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ズ

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出ズシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ズ

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラズ衆議院議員ニ闕員ヲ生ジタルトキハ議長ヨリ内務大臣ニ通牒シ補闕選舉ヲ求ムベシ

第十七章

紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ

法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハザルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマデ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ヅルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシ

メ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ズ

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用井ルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ズ

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルヲ得ズ

第十八章

懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

- 一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス
- 二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ズ

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スベシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内

ニ召集ニ應ゼザルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルニ由リ若ハ請暇ノ期限ヲ過ギタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セザル者ハ貴族院ニ



於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ裁勅ヲ請フベク衆議院ニ於テハ之ヲ  
除名スベシ

### ○衆議院議員選舉法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシ  
メ併セテ帝國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキ  
トテ命ズ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道

法律第三號

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命ジ選舉長タラシムベシ

第四條 一市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長タラシムベシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スベシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年滿二十五歳以上ノ者

衆議院議員選舉法

農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣	伯爵松方正義
兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	子爵森有禮
逓信大臣	子爵榎本武揚

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 選舉人ノ資格

第八條 選舉人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歳以上ニシテ

選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ眞接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者タルベシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 官内官裁判官會計検査官收稅官及警察官ハ被選舉人タルコトヲ得ズ

前項ノ外ノ官吏ハ其職務ニ妨ゲザル限ハ議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ズ

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ズ

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ズ

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當選ヲ承諾シ

タルトキハ其ノ前職ヲ辭スベキモノトス

第四章 選舉人及被選人ニ通ズル規定

第十四條 左ノ項ノ一二觸ル、者ハ選舉人及被選人タルコトヲ得ズ

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レザル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經ザル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期

ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經ザル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經ザル者

七 選舉ニ關ル犯罪ニ由リ選舉權及被選權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中選舉權ヲ行フコトヲ得ズ及被選人タルコ

トヲ得ズ其ノ休職停職在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ選舉人及被選人タルコトヲ得ズ

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ

至ルマデ選舉權ヲ行フコトヲ得ズ及被選人タルコトヲ得ズ

第五章 選舉人名簿

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域

内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日  
マテニ其ノ一本ヲ差出サシムベシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國  
稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選  
舉長其ノ人名簿ヲ調製スベシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區  
長ヲシテ其ノ区内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムベシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長ト

ナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムベシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市  
内ノ人名簿ヲ調製スベシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルト  
キハ納稅地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ

期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スベシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル選舉人  
名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ

區役所ニ備置キ其副本ヲ府縣知事ニ送致スベシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ

寫<sup>うつし</sup>ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽<sup>じゅうらん</sup>セシムベシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ハ脱漏<sup>だつろう</sup>又ハ誤載<sup>ごさい</sup>アルコトヲ發見<sup>はつけん</sup>シタルトキハ其理由書及證據<sup>しよりのやうしよ しょうひやう</sup>ヲ具ヘテ縦覽期限<sup>じゅうらんきげん</sup>内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正<sup>かいせい</sup>ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限<sup>けいけん</sup>ヲ經過<sup>けいぐわ</sup>シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 選舉長ニ於テ脱漏<sup>だつろう</sup>ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據<sup>りやう じやう</sup>ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示ス

ヘシ

第二十五條 選舉長ニ於テ誤載<sup>ごさい</sup>ノ申立ヲ受ケタルキハ其ノ理由及證據<sup>りやう じやう</sup>ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚<sup>せうくわん</sup>審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除<sup>さくじやう</sup>シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スベシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ選舉長ノ判定ニ服セザルトキハ選舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟

ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スベシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サズ但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 選舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クベシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ選舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取タルトキヨリ二十四時間内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ選舉區内ニ告示スベシ

第六章 選舉ノ期日及投票所

第三十條 選舉ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命ゼ

ラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時選舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スベシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ選舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラザルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スベシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ

本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムベシ  
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ズ

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ輪ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之  
ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ  
面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虚ナルコトヲ示スベシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對  
照ヲ經テ投票スベシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各々一定ノ式ヲ用非選舉ノ當日投票所ニ

於テ町村長ヨリ之ヲ各選舉人ニ交付スベシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓  
名住所ヲ記載シテ捺印スベシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハザル由ヲ申立ツルトキ

ハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシ  
メ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スベシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スベキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウ  
ベシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ズ但



シ選舉人名簿ニ記載セラレベキ裁判言渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スベシ

第四十二條 投票總ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ゲ投票函ヲ閉鎖スベシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サズ

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スベシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致ス

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハザル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マデノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マデニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉委員三名以上七名以下ヲ定ムベシ

第四十八條 選舉長ハ投票函送達ノ翌日選舉委員立會ノ上各投票函ヲ開

キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數  
 二差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載スベシ  
 第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ選舉長ハ選舉委員ト共ニ投票  
 ヲ點檢スベシ

第五十條 各選舉區ノ選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得  
 第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

- 一 選舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依  
 リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用井ザルモノ
- 三 選舉人自己ノ姓名ヲ記載セザルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人  
 員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚漆塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓  
 名ヲ認知スベカラザルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用井又ハ誤字ニ係ル  
 モ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ  
 被選人ノ指名ノ誤ラザル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬  
 稱ヲ用井タルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ  
 選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツル

コトヲ得ズ

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツベシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スベシ

連名投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ニ足ラザルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツベシ

第五十六條 選舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマデ其ノ投票ヲ保存スベシ

第五十七條 選舉長ハ選舉明細書ヲ作り選舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ選舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムベシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ベシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スベシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ノ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ベシ

第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ベシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スベシ

第六十四條 當撰人ニシテ其當撰ヲ辭シ又ハ限期内ニ其ノ當撰ノ承諾ヲ

届出ザルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命ジ再ビ撰舉ヲ行ハシムベシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當撰

ヲ得タル者其ノ當撰ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出ザルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ茲ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スベシ

シ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應ズルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クベキ旨ヲ命ゼラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ撰舉セシムベシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章

投票所取締

第六十九條 票投管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ武器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十一條 選舉人ニ非ザル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サズ

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧噪ニ涉リ又ハ他人ノ投票

票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハザルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムベシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル爲ニ再ビ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁ジ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スベシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ズ

第七十七條 撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマデノ例ニ照シ撰舉長之ヲ處分スベシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各撰舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當撰人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當撰人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ゲタル當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書ヲ控訴院書記局ニ預置クベシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セザルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラザルトキハ之ヲ追徴スベシ

第八十一條 同一ノ當撰人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スベシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下ルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スベシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又

ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場  
合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムベシ  
當換訴訟ニ關係セザル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判  
所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書  
ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スベシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議  
長ニ送付スベシ

第八十六條 當換訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコ  
トヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當換人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマデ衆議院ニ

列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當換訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手  
續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納税額年齢住所及其ノ他換舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ

選舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ選舉ヲ爲  
スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私  
ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上  
五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ選舉ヲ得又ハ他人ニ選舉ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ選舉ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ選舉ヲ爲シ又ハ撰舉ヲ爲サ、ル者亦同シ

第九十二條 選舉ヲ得又ハ他人ニ選舉ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ撰舉ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタルモノハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘテ選舉ヲ得又ハ他人ニ選舉ヲ得セシメ

若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ齎聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ齎聚ニ應ジ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ



四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加  
又

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ齎聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁獄ニ處ス

其ノ情ヲ知テ齎聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮  
ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條  
ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者  
モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者  
ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ  
處セラレタルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選  
舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ  
罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑  
ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺ク

トキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章

補則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シ

タル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ヲ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村

長ノ職務ハ戸長之ヲ掌ルヘシ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得税法施行以來第六條第八條

ニ規定シタル納税額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納税資格ノ期限ニ充

ツルモノト見做スヘシ

第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準

行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セズ

衆議院議員選舉法附錄拔萃

愛知縣

議員總數

十一人

第一區 名古屋區

一人

第二區 愛知郡

一人

第三區 東春日井郡、西春日井郡

一人

第四區 丹羽郡、葉栗郡

一人

第五區 中島郡

一人

第六區 海東郡、海西郡

一人

第七區 知多郡

一人

第八區 碧海郡、幡豆郡

一人

- 第九區 額田郡、西加茂郡、東加茂郡 一 人
- 第十區 北設樂郡、南設樂郡、寶飯郡 一 人
- 第十一區 渥美郡、八名郡 一 人

静岡縣

議員總數

八 人

- 第一區 安倍郡、有渡郡 一 人
- 第二區 富士郡、庵原郡 一 人
- 第三區 志太郡、益津郡 一 人
- 第四區 榛原郡、佐野郡、城東郡 一 人
- 第五區 周智郡、豊田郡、山名郡、磐田郡 一 人
- 第六區 長上郡、敷知郡、濱名郡、引佐郡、鹿玉郡 一 人

岐阜縣

議員總數

七 人

- 第七區 那賀郡、賀茂郡、君澤郡、田方郡、駿東郡 二 人
- 第一區 厚見郡、方縣郡、各務郡 一 人
- 第二區 不破郡、安八郡 一 人
- 第三區 海西郡、下石津郡、多藝郡、上石津郡、羽栗郡、中島郡 一 人
- 第四區 大野郡、池田郡、本巢郡、席田郡、山縣郡 一 人
- 第五區 武儀郡、郡上郡 一 人
- 第六區 加茂郡、可兒郡、土岐郡、惠那郡 一 人
- 第七區 大野郡、益田郡、吉城郡 一 人

衆議院議員選舉法附錄

八十八

三重縣

議員總數

七人

第一區 安濃郡、一志郡

一人

第二區 三重郡、鈴鹿郡、奄藝郡、河曲郡

一人

第三區 桑名郡、員辨郡、朝明郡

一人

第四區 飯高郡、飯野郡、多氣郡

一人

第五區 度會郡、答志郡、英虞郡、北牟婁郡

二人

南牟婁郡

第六區 阿拜郡、山田郡、名張郡、伊賀郡

一人

(以下各府縣各區別ヲ略ス)

東京府 議員總數十二人

京都府 議員總數七人

大坂府同 十人

神奈川縣同 七人

兵庫縣同 十二人

長崎縣同 七人

新潟縣同 十三人

埼玉縣同 八人

群馬縣同 五人

千葉縣同 九人

茨城縣同 八人

栃木縣同 五人

奈良縣同 四人

山梨縣同 三人

滋賀縣同 五人

長野縣同 八人

宮城縣同 五人

福島縣同 七人

巖手縣同 五人

青森縣同 四人

山形縣同 六人

秋田縣同 五人

衆議院議員選舉法附錄

八十九

福井縣	同	四人	石川縣	同	六人
富山縣	同	五人	鳥取縣	同	三人
島根縣	同	六人	岡山縣	同	八人
廣島縣	同	十人	山口縣	同	七人
和歌山縣	同	五人	徳島縣	同	五人
香川縣	同	五人	愛媛縣	同	七人
高知縣	同	四人	福岡縣	同	九人
大分縣	同	六人	佐賀縣	同	四人
熊本縣	同	八人	宮崎縣	同	三人
鹿兒島縣	同	七人			

### ○貴族院令

朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス  
 此ノ勅令ヲ實施スルノ時期ハ朕力更ニ命スル所ニ依ルヘシ

### 御名御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黒田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西郷從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨

勅令第十一号

貴族院令

司	法	大	大	大臣	伯爵山田顯義
大	藏	大	大	大臣	伯爵松方正義
兼	内	務	大	大臣	伯爵大山 巖
陸	軍	大	大	大臣	伯爵森 有禮
文	部	大	大	大臣	子爵榎本武揚
遞	信	大	大	大臣	

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各々其ノ同爵中ヨリ選舉セラレタル者

四 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ

中ヨリ一人ヲ互選シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各々其ノ同爵ノ選

ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則

ハ列ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各々總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セ

ラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互選シ其ノ選ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ選舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勲勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ

關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ

貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ

除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セララルヘシ被選議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就クヘシ



第十二條

此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條

將奉此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議

決ヲ經ベシ

明治廿二年二月十七日印刷

明治廿二年二月十九日出版

(定價) (金貳拾錢)

愛知縣平民

著作者無  
發行者

相馬政德

愛知縣名古屋區南伊勢町  
九十七番戶寄留

同縣士族

印刷者 田中有文

同縣同區傳馬町七十番戶

名古屋區南伊勢町

發兌元 博文閣

大盛見同同靜同掛同同同濱同舉同同西同同豐  
垣井附 岡 川 松 母 尾 橋

岡明小三吉廣松三白谷三積九文博三開鐸春豐

安 志浦見瀨 屋原木嶋  
治 好屋健屋盟石阜會開省益々風川  
慶 亮定義市 五甚二 三

助舍平吉次造郎藏郎郎堂堂堂堂舍堂堂舍舍堂

松同同津同四桑同山同飯同高同岐同足知御  
阪 市名 田 田 山 阜 助立油

中淺河豐岩伊羽加石精耕大耕文文琢紙淡世

崎住 藤柴 藤丸 屋 坪屋 屋月  
西野 九謹 善茂 華 善重 淵港 次堂賜  
嘉東 右二 與太三 忠右 兵 商 郎 理

助助門郎七郎郎平人堂助門衛堂堂店九店堂

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同名  
崎 古屋

發

環淡岡文酷新興耐其一棍小東大鈴三川片鬼

田 田澤 木輪瀨野頭賣  
翠月屋昌月月文成中貫 吉雲成吉文 東平  
平 勤 三 兵次 四兵所

堂堂助堂堂堂堂堂堂堂堂助郎堂堂衛郎助郎衛

國同新同刈大龜同同半小一稻稻蟹同同同津  
府 城 谷野崎 田折宮澤置江 島

平進村鶴田伊耕橋觀同文足松市吉井佐山松

松 田見中藤 盟 立 屋橋田澤藤田原  
勢 英太宗新 芳畔古 會 清平賢重 賢  
書 書 熊 兵 次次 甚甚 之

房舍吉七三造園堂堂林堂吉衛門郎郎八助助

○正誤

○一丁四行 十月十四日ハ十二日ト改ム

○五十二丁 九行 第三章選舉ハ被選ノ誤

大審院刑事第一局長從三位勳三等西岡逾明君題辭  
愛知縣書記官山縣伊三郎君 序  
河 針谷重麴君 序  
宮城 (版權所有)  
丹野英次 合 著  
相馬政徳

理由町村制詳解 全

三百六十ペーシ  
實價金五十五錢  
特別割引金三十錢  
郵送賃二十錢  
通運送ハ壹部十錢  
二部以上ハ一部毎ニ壹錢ヲ増ス

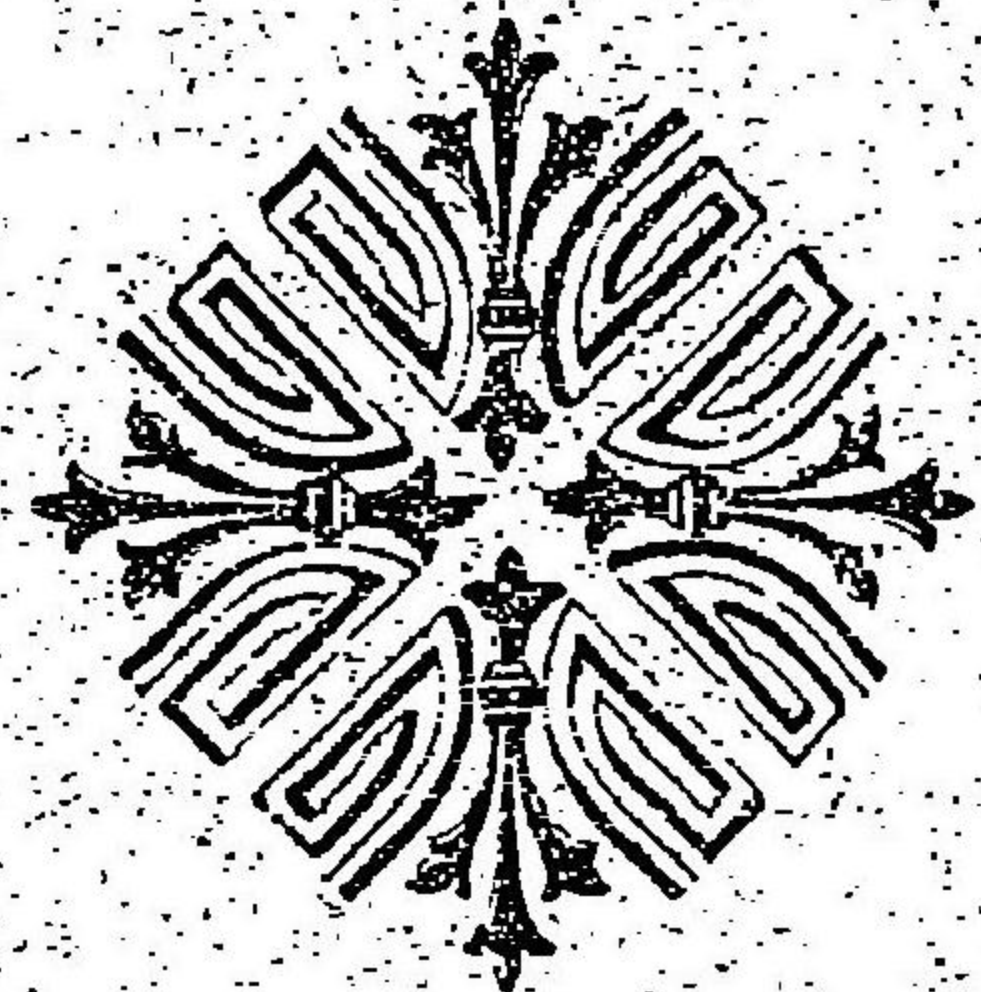
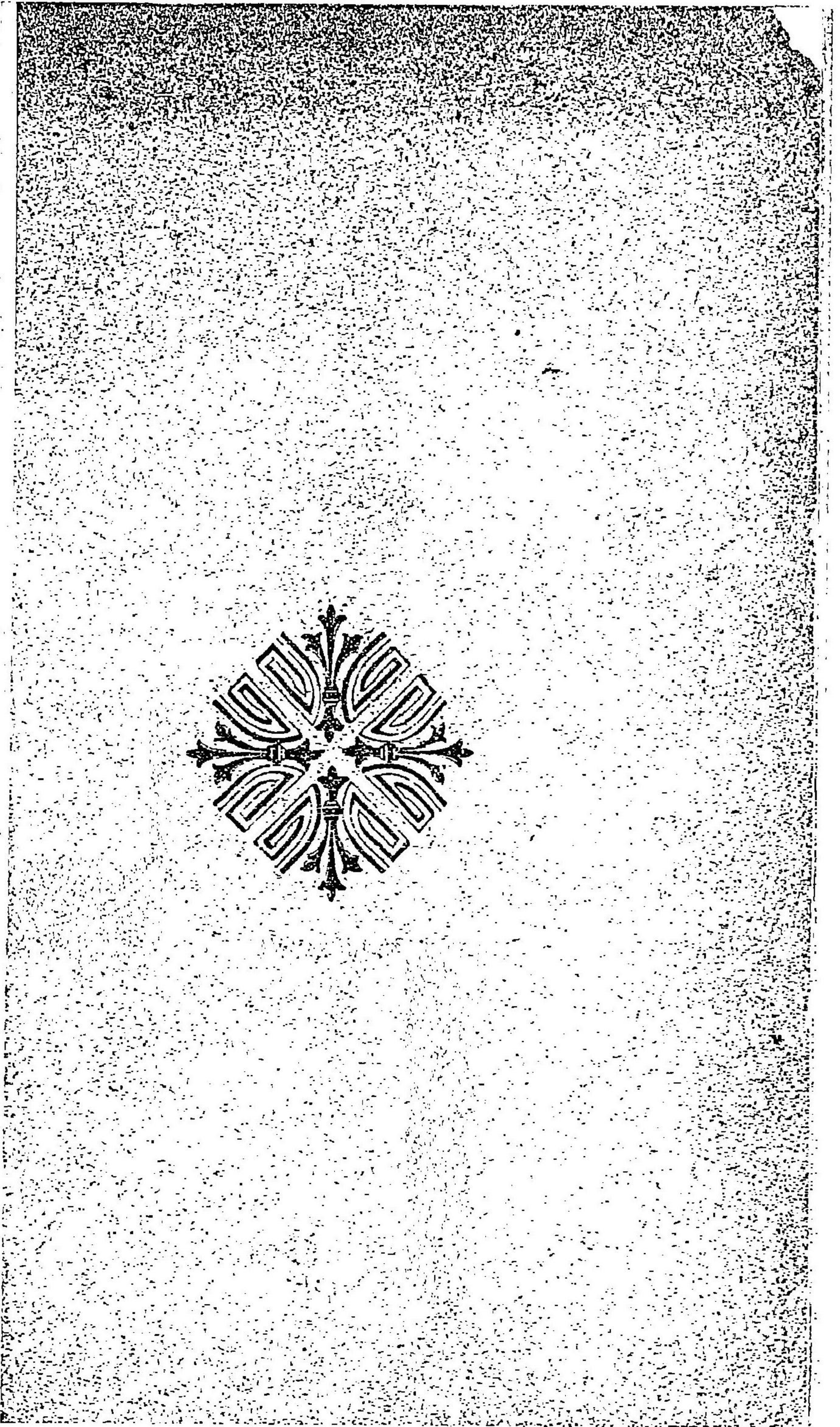
右ハ敝閣ニ於テ出版シタルニ爾後各府縣下ヨリ續々御注文ヲ受ケ候向第二版ヲ出版シ猶  
三版ニ着手セリ尤此書ハ當局者ニ便利ヲ與ヘ煩雜ヲ省ク書ナルコトハ今更喋々ヲ要セザ  
ルモ購求セラタル方々ニ就キ御高覽ノ上猶續々御購求アラソフヲ乞フ

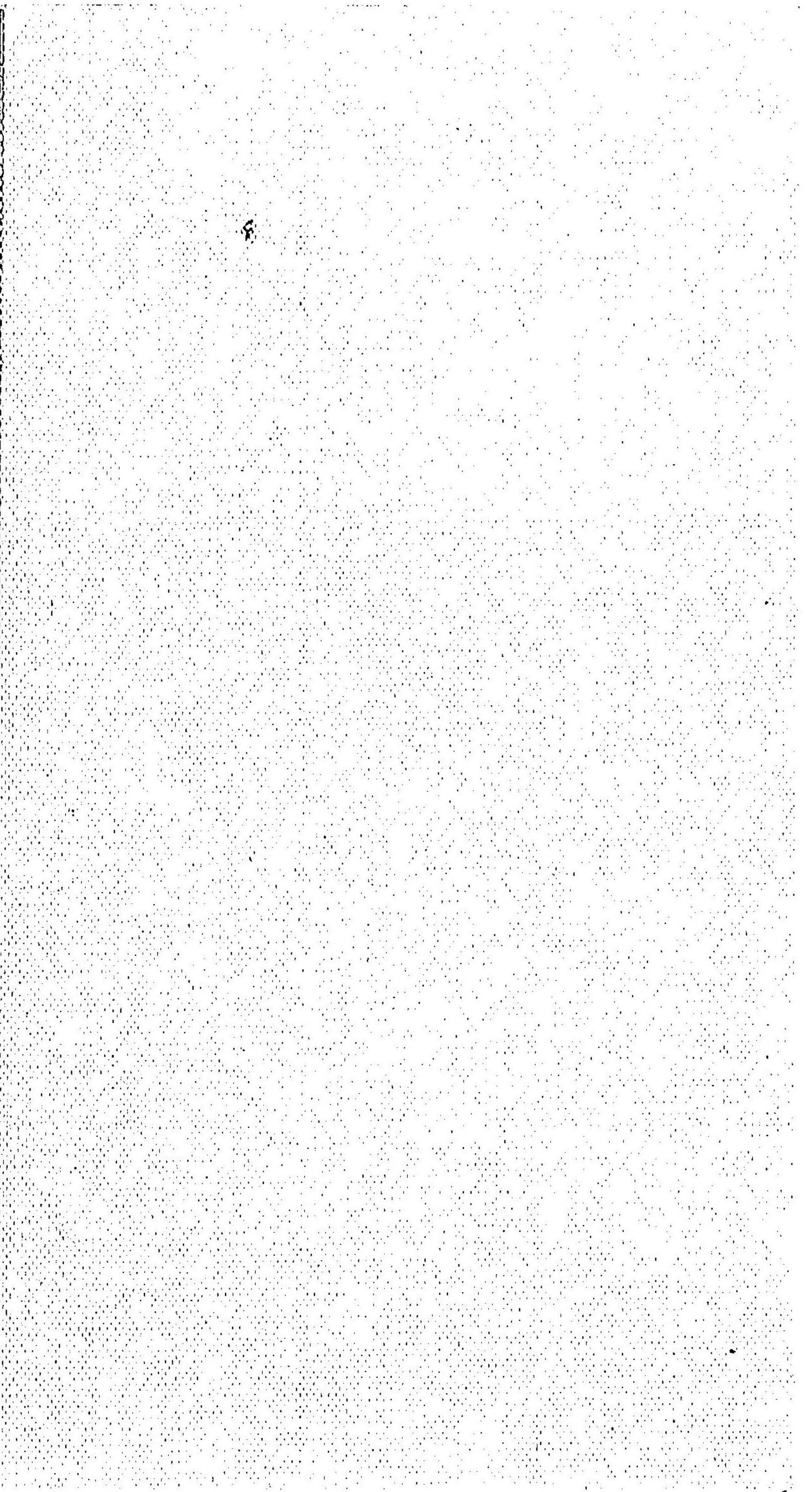
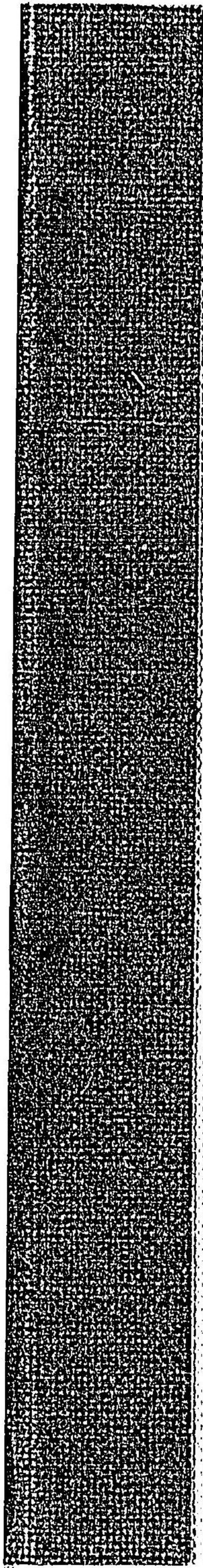
名古屋區南伊勢町九十七番戶

發 兌 元

博 文

閣 敬 白





CZ

212

035

傍訓 大日本帝國憲法  
議院法 衆議院議員撰挙法  
撰挙法附録(撰挙区上人員)  
貴族院令

国立国会図書館

禁電子式複写

031638-000-5

CZ-212-035

大日本帝國憲法(傍訓)

相馬 政徳 / 編

M22

BBE-0265

